



医師、看護師不足対策は

貝田 義博 議員

な残業は月に約42時間。医師も看護師も不足しており、いまパート医師を確保するなど、検討している。

出産入院はできなくなるのか

問 当病院では今後、出産入院を受け付けないとの話を聞くがどうか。

市立病院長 久留米大学の医局から産婦人科医師の派遣がなくなり、現在は同大学を退職した医師を雇用している。雇用条件もあり、出産は大学の母子センターで実施する方向である。

問 当市では年間出生数が400人、また市立病院には助産師も12人いる。

引き続き市立病院で出産できるように、市長は医師派遣に努力すべきではないか。

市長 今議会終了後にも、同大学の学長でもある当病院の名誉

院長とも会い、再度お願いしたい。

健康づくり体制はどうするのか

問 住民健診率は、八女市24%に対し、当市38%である。市立病院は電子カルテも導入している。市民の健康増進に向けて、行政と病院との連携が必要と思うが。

市民生活部長 市立病院や診療所との連携を含め、市民の健康づくりに向けた推進体制を考えたい。

地方分権の中での行政と地域住民の協働は

中富 正徳 議員

問 地方分権が進む中「お任せ行政」からどう脱却するのか。

市長 真の民主主義が芽生えていないことから、さまざまないき詰まりの現象が起きている。そのため「市民が主役」、「協働のまちづくり」を今展開している。校区の活性化の面では、公民館活動による文化祭や正月祭り、デイサービス、ふれあいの里づくり事業、安心安全のまちづくり等、確実に市民の意識改革は進みつつある。

問 地域には地域のやりたいうことや優先順位があり、行政の画一的サービスで、地域のニーズに合うのか。

市長 長い歴史があり一朝一夕にはいかない。一つは財政的な裏づけ、もう一つは自分たちは変わっていくときの一つの役割を果たすんだという意識改革の二つが相伴って頑張っていかにざるを得ない。

問 行政も思い切って権限を外し、職域を再考しながら、市民の自立へのメッセージを送ってもらいたい。

長期間管理されない土地・建物の放置問題をどうするか

問 管理されず放置された土地・建物の取扱い方に周辺住民が苦勞しているが。

都市対策課長 市としての対応例は八女土木事務所との協議、現地写真と文書を添付し地権者に早急な対応をお願いしている。いずれにしても関係課と協議する。

測量基準点と官民境界杭を復元せよ

問 市民より工事後の復元がされていないと聞くが。

道路・水路課長 ここ五、六年前から復元をし、竣工検査時に確認もしている。
問 基準点及び境界杭がない場合短時間で復元・再現してもらいたい。



筑後市立病院



長期間管理されない土地と建物